



甲府市 薬剤師会 だより

2022年3月

公益社団法人 甲府市薬剤師会
〒400-0857 甲府市幸町14-6
電話番号055-236-5200
FAX番号055-236-5201

皆様の健やかな暮らしを願って

第14号

副会長就任のご挨拶

(公社) 甲府市薬剤師会

副会長 久田 裕児

平素より甲府市薬剤師会の活動に対しましてご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

長らく生涯学習委員会の委員長として市民向け講演会や中・高生公開講座等を担当してまいりましたが、この度(公社)甲府市薬剤師会の副会長を仰せつかりました久田と申します。

国内で初の新型コロナウイルス感染者が確認されてから2年以上が経過しました。未だに変異ウイルスによる感染が繰り返されて収束が見通せない状況です。その余波は薬局にも広がっています。甲府市薬剤師会の事業の大きな柱である「救急調剤薬局」もその一つであり、受診控えにより大きな影響を受けています。また、市民向けの講演会「市民くすりと健康の講演会」、中学生・高校生を対象

とした「中・高生公開講座」、学術研修会、高齢者学級への講師派遣等も多くが開催中止を余儀なくされました。



甲府市薬剤師会では、新型コロナワクチンの集団接種において、甲府市との業務委託契約により甲府市医師会、甲府市歯科医師会と協同のもと、ワクチンの希釈・充填作業に参加させていただいてお

ります。5~11歳の子供の接種(小児接種)も始まり、更なるワクチン接種の促進とともに感染症の再拡大防止に引き続きご協力くださいますようお願いいたします。また、ワクチン・検査パッケージ等定着促進事業や感染拡大傾向時の一般検査事業、やまなしホームケア等への協力薬局におきましても引き続き全力で協力し、一刻も早い収束を心より願っております。

急速に進む少子高齢化社会、医療費削減の流れの中で調剤報酬の改定が頻繁に行われています。「かかりつけ薬剤師としての活躍」、「在宅医療への貢献」など、対人業務が重視され、より複雑な業務に注力する事が求められています。対物業務から対人業務へとシフトしていく中で薬剤師は大きな転換期を迎えているのだと感じます。

調剤に欠かせない薬剤の知識だけでなく、医療制度や在宅医療、コミュニケーション力など、幅広い知識・スキルを身につける事で活躍の場が広がるのではないかと感じております。

日々の業務の合間に少しずつ研鑽を積み、より多くの方々へ信頼される薬剤師を目指していきたくと思います。

令和3年度 市民くすりと健康の 講演会を開催して

(公社) 甲府市薬剤師会
生涯学習委員会
百瀬 美紀

去る令和3年11月14日、山梨県立図書館多目的ホールにおいて、山梨大学医学部附属病院眼科臨床助教の福田佳子先生をお招きし「緑内障 病態と治療」と題し、市民くすりと健康の講演会を開催致しました。



講師：山梨大学医学部附属病院眼科臨床助教の福田佳子先生

今回もまだ新型コロナの収束がみられず制約のもとではありましたが、30名の方が出席くださいました。

当日は、事前予約による人数制限、手指の消毒、入場口での体温測定、座席の配置など感染対策に



講演会の様子

は万全を期しました。ご参加いただいた方は、緑内障を身近に感じる年代の60代～80代の方が大半を占めましたが、なかには20代の方の参加もあり、年齢を問わず関心のあるテーマであったことがわかります。

緑内障は身近な疾患であるにもかかわらず、その詳細を知る方は意外にも少ないため、まず福田先生は、写真や図解を用い、目の構造、緑内障の状態、進行状況、病態について段階を追って、私たちに分かりやすく丁寧に解説してくださいました。

そして日本人における年齢別の有病率、失明原因のうちの緑内障が占める割合、危険因子、生活上の注意点、治療方法と、私たちの生活を密着させ、個々が思いを寄せられる内容でした。そのため、講演終了後には多くの質問が寄せられて、参加者が講演内容を理解し、参加する前よりも一層関心を持ってもらえたことがわかりました。

福田先生も一つ一つの質問にわかりやすく丁寧にご回答してくださいました。まだまだ多くの質問はありましたが、コロナ禍であるために時間の都合上、質問者も限られましたが、皆様には納得していただけたと思います。

内容がより興味深く、また充実したものであったかは、アンケート結果により示されており、参加者のほぼ全員が、「参考になった」と回答をくださり、講演時間においても「ちょうど良い」との回答が大半を占めたことで、福田先生の御講演が大変有意義な内容と時間であったことが示されました。

今後、取り上げてほしい内容など多くの市民の方々から要望も多数あり、この講演会が地域に根付いていることがよくわかります。

これからも市民の方々が求めているもの、又、テーマにしなくてはいけない内容など、(公社)甲府市薬剤師会 生涯学習委員会では、検討していきたくと思います。

全員の先生方の御協力の程、今後共宜しくお願い致します。



啓発活動のパネル展示

薬物乱用防止キャンペーンを振り返って

(公社) 甲府市薬剤師会
 医薬・環境情報委員会
 大嶋 了

医薬・環境情報委員会では、甲府市薬剤師会の普及啓発に関する事業の一つである薬物乱用防止の啓発活動として 毎年、『薬物乱用防止キャンペーン』を行っています。このキャンペーンは、2018年に当委員会で初めてこの事業として取り上げられました。



キャラバンカー

第1回目のキャンペーンでは、『いつ、どこで、どのように行ったらよいのか?』このキャンペーン開催を取り組むにあたりまったくの手探りの状態から始まりました。委員会では、『薬物乱用に関するパネルを図書館で展示しても多くの人の目に留まらない。多くの人に薬物乱用防止を周知する方法は、ほかにはないのか?』と何度も繰り返し検討しました。そんな中 車体に大きく『ダメ・ゼッタイ。』の文字が書かれ、内部には模擬薬物の展示や薬物乱用の解説、そしてコンピューターによるクイズ機器が設備されている麻薬・覚せい剤乱用防止センターのキャラバンカーのを知り、派遣を依頼して現在のキャンペーンの骨組みが出来上がりました。そして、第1回薬物乱用防止キャ

ンペーンにキャラバンカー試乗と図書館内のパネル展示で50名ほどの人に参加していただきました。その後、委員会の反省で『図書館駐車場のため 多くの人の周知には至らないのではないかと場所の検討が今後の課題になりました。



缶バッジ作成の様子

第2回目のキャンペーンではこの課題を克服するため 開催場所を甲府駅北口『よっちゃばれ広場』に変更して広場のキャラバンカーと図書館内のパネル展示の2本立てで開催しました。駅前に停車したキャラバンカーの『ダメ・ゼッタイ。』の大きな文字は駅を利用する多くの人に見ていただき当面の目標は達成できました。しかし当日はあいにくの雨で、2月の寒さも重なりパネルを展示した図書館は昨年並みの来場、キャラバンカーの試乗は昨年より少ない結果に終わりました。キャンペーン終了後、今度は『開催時期が問題ではないか』と次回の課題が委員会では出されました。



キャラバンカー内の様子

第3回目は、委員会での開催時期変更に沿って10月に開催、残念ながらコロナ禍でキャラバンカ

ーを中止して図書館のみでパネル展示を行いました。そして今回第4回目の薬物乱用防止キャンペーンは、いままでの経験も踏まえ開催時期は11月、北口でのキャラバンカーの試乗、とコロナ禍で図書館使用ができないためテントを借りてのパネル展示、さらにキャラバンカー試乗記念の缶バッジの進呈を行う計画で当日を迎えました。当日は晴天となり、キャラバンカーの『ダメ・ゼッタイ。』の大きな文字は甲府駅北口『よっちゃばれ広場』のバスを待つ人、駅に向かう人、観光で広場を通る人達の目を引き十分周知ができました。またキャラバンカーの試乗も70名ほどあり、多くの子供たちに関心を持ってもらえました。開催後、当委員会で初めて納得のいくキャンペーンができたと思いがあがりました。

最後に、当委員会では、毎回、いかに多くの人に薬物乱用防止の周知ができるかを議題として取り上げています。街頭での薬物乱用防止の周知活動以外にも薬剤師として児童生徒用教材、教師用指導資料の作成・配布・活用推進、薬物乱用防止教室の充実強化、教員や薬物乱用防止の指導者に対する研修会など協力できる活動があるのではないかと考えています。今後、医薬・環境情報委員会だけでなく甲府市薬剤師会として他の委員会も一緒にキャンペーンができるとよいと思います。



同時開催のお薬相談会

新型コロナウイルスの 予防接種にかかわる薬剤師

(公社) 甲府市薬剤師会
会報編集委員会
数野 庸

現在、甲府市薬剤師会では甲府市からの要請をもとに甲府市医師会等とともに甲府市集団予防接種に協力をしており、令和3年より協力をしております。また、市民の皆様の疾病の予防、公衆衛生の向上にかかわることができとてもうれしく思います。

薬剤師が集団予防接種に関わらせて頂き、その報告をさせていただきます。

甲府市では3月現在、総合市民会館、南・西公民館、ココリ、環境センター、かいてらす、甲府記念日ホテル、アイメッセで行っており、すべての会場で薬剤師が作業を行っております。作業に当たる薬剤師は甲府市医師会の協力のもと、研修を受けた薬剤師のみが参加しており、使用しているワクチンはモデルナ製とファイザー製です。そして小児の集団予防接種ではファイザー製を使用しています。ファイザー製ワクチンは成人と小児では希釈する生理食塩水の量と接種する量が異なります。この点に注意して薬剤師は作業を行っております。

モデルナ製では1回目2回目では0.5mLを接種していますが、3回目は半分の量の0.25mLを接種しています。

作業するとき、薬剤師はあらゆる注意点を守っております。ワ

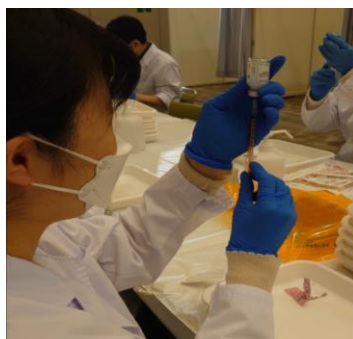
クチンは振動に弱いため、衝撃を与えないようにしています。決められた生理食塩水を正確に計ってから希釈しています。シリンジには決められた量を計り取ってから接種者のもとへ渡します。この時にシリンジには空気が入っていないかなどに注意しています。筋肉注射のワクチンのため、空気が入っても問題ないとされていますが、空気があることで規定量のワクチンが注射できない問題が生じます。このようなトラブルを回避するために薬剤師は常に細心の注意を払って作業をしております。

市民の皆様が接種をしている裏で薬剤師は作業をしています。その作業の一部を写真で紹介したいと思います。

1. と2. の写真では薬剤師が1つのバイアルから15回に分ける作業(分注)をしています。必ずほかの薬剤師と規定量あるかどうか、気泡がないかをダブルチェックをしています。メモリが小さいため集中して作業をしています。



1. 分注の全体風景



2. 分注風景

モデルナ製では1つのバイアルから15回分を分注するためトレイの上は注射だらけになります。分注したあとに看護師や歯科医師に渡す前に最終監査を行っていません。薬剤師の業務の基本にダブルチェックがあります。しかし、今回のワクチンに関してはトリプルチェックを行っていません。15本に分けた後に最後の薬剤師が一つ一つをチェックします。ここのチェックを通過したものが市民の皆さんの接種に使用します。



3. 15回に分けた様子

薬剤師はワクチン接種が終わるまで会場に残ります。万が一に備えたり、お薬に関する相談に乗ったりします。もし、会場でお薬に関する事で気になることがあれば必ず薬剤師がいますので遠慮なく相談してください。

最近では期限切れのワクチンの報道を見ますが、ファイザー・モデルナともに国より一律の使用期限が延長されています。不安になるかと思いますが、安心していただければと思います。

今後も市民の皆様が安心して予防接種を受けられるように薬剤師一丸となって事業に関わっていきたいと思います。

第14号 2022年3月31日
発行/(公社)甲府市薬剤師会
編集担当/会報編集委員会